

焼板クラフト (やきいたくらふと)

焼板クラフトは、手軽にできるうえ活動の場所を問わない人気のプログラムです。3年間の宿泊学習のうち、一度は入れておきたいところです。飾り付けも学年・児童生徒の実態に応じて様々な材料を用いることができます。自然の家の思い出を形に残し、児童生徒の心に残る活動にしましょう。

- 《 対象季節 》 …一年中
《 対象学年 》 …4年生以上
《 時間 》 …磨き 30～40分程度
飾り付け 45～70分程度
磨きから飾り付けまではおよそ2時間～2時間半
《 活動場所 》 …運動広場・野外炊事テーブル・体育室など
《 持ち物 》 …本体に使う板(杉材などの木目のしっかりついた材質の板を推奨。合板は不可)・軍手・錐・新聞紙
飾り付けの材料・亀の子たわし・汚れてもよい服装・マスク・ホットボンド用スティック
《 準備 》



- (1) ホームセンターや材木店などで、板材を購入する。
※サイズは縦12cm前後×横25～30cm×厚さ2cm程度のもの 用途や飾るものの材料、大きさなどをご検討ください。

- (2) 入所当日(もしくは入所日)までに自然の家にお持ちください。

- (3) 飾り付けの材料を用意する。

<飾り付け材料の例>

- ・絵の具
- ・どんぐりや木の実、木の枝などの自然物
- ・モールやビーズなどの人工物
- ・飾り付けにつかうホットボンド用のスティック(7.5m/mφのもの)

《 活動 》

- (1) 板を焼く。(自然の家職員もお手伝いします。軍手や皮手袋、長袖長ズボンなどの身を守る服装でお願いします。)
(2) 板を亀の子たわしで磨く。このとき、板の木目に沿ってたわしを動かすと、木目がそのまま残り、美しい模様が現れます。(運動広場の奥側に児童生徒を移動させ磨かせてください。)
(3) 黒い炭がなくなり、指で触っても黒くならない程度まで磨きます。
(4) 飾り付けを行います。飾り付けは野外炊事場のテーブルや体育室で行えます。
(5) 作品の上部にヒートン(木ねじ)をつけ、糸や紐などで飾りやすくすることもできます。

《 注意点 》

○板を磨く時、粉になった炭が著しく舞います。また、服についた炭は一度ではきれいに落ちない場合がありますので、児童生徒の服装については十分ご注意ください。

○板を焼き、磨くまでの工程を自然の家で行い、飾り付けは持ち帰ってから行うこともできます。

○板を焼いてすぐに磨きに入ると火が残っている可能性があります。児童生徒には必ず軍手などを着用させてください。

○絵柄や木の実などは、事前に児童に準備させておいてもいいです。当日、自然の家で集める方法もありますが、団体の人数によっては全員分が集められない可能性があります。

○接着剤は木工用ボンドでもいいのですが、乾燥に時間がかかります。また、シンナー系のおいにする接着剤は、体育室での使用は危険です。

